

川越政

今期は「攻める年」

生地、製品、人材、融合させて

製品OEM/ODMも持ち、それをコンパネテ手掛ける生地商社、川越政(大阪市中央区)は今期(2022年3月期)を「攻める年(川越浩治社長)」と位置付ける。生地、製品、人材という3要素を強みとし、その連携、融合を進める。

川越社長は新型コロナウイルス禍で衣料品消費が低迷する中、「攻めるぐらいで丁度いい。守るよりもあえて攻勢に出る」との考えを強調する。

生地事業では「国内有数のバリエーションを提供できる体制がある」と自負する。日本全国の産地や染工場とつながりを

この三つの要素が整っているから「攻められる」。前期に開拓したインフルエンサー、アウトドア、ネット通販アパレル、ゴルフブランドなど「新型コロナウイルス禍でも成長している分野」への提案をさらに強めるほか、会員制交流サイト(SNS)も活用して情報発信と新規顧客獲得を狙う。新規開拓の一環としてホームペ

ージもリニューアルし、輸出拡大につなげるため日本語、英語、ベトナム語、中国語の4カ国語表記とした。

今期から選抜制就業時間制度も導入。例えばアパレル対応の営業スタッフ

と内勤者では「実働時間が全く異なる」ため、これにより社員一人当たりの生産性をさらに向上させる。

21年3月期は新規開拓出張費減で微増収益

川越政の21年3月期決算は、売上高が22億8200万円(前期比2・0%減)と新型コロナウイルス下でも微減にとどめた。出張旅費が71%減少したことや付加価値化が進んだことで経常利益、

純利益は増加した。上半期は店舗休業や衣料品不振の影響を受けた。販売先の破綻、消滅したブランド、入金が遅れ、発注のキャンセル・減少などで既存顧客からの受注は40%減と苦戦した。

これを受けて選択と集中を推進。下半期はインフルエンサー、アウトドア、ネット通販アパレル、ゴルフブランドなどの新規開拓が進んだことと輸出拡大などで盛り返した。輸出はベトナムを軸に伸び、35%増だった。

た。輸出はベトナムを軸に伸び、35%増だった。営業面で「ベトナム社員がリードし若手が機動力を発揮」し、管理・サポート部門も「渡航制限下でも安定した品質と納期管理など献身的な動きができた」。

利益拡大には社内にてキッシュンフロー意識を浸透させて在庫対策を実施したことも貢献。期末在庫は8%減少し、自己資本比率は前の期から7ポイント上がり51%となった。

開しており、スピリット社のエンジニアリング設計技術や製造に関する専門知識、メンバー企業との共同研究に必要な先進的な製造設備を提供している。

帝人グループは今回のAICへの参画を通じて、スピリット社やメンバー企業との革新的な技術開発を実現し、持続可能な未来の構築への貢献を目指す。

用途に合わせた性質変化が可能になる。試算では製造工程に必要なエネルギーも少ないとする。

同社は今後、SICNFの商業生産に取り組み、繊維を含む素材業界を中心に販売を目指す。生産ライセンス販売も視野に入れる。23・25日にインテックス大阪(大阪府住之江区)で開催される展示会「関西ササエナブルマテリアル展」に出展し、SICNFを披露する。

帝人は米国・スピリットエアロシステムズの研究組織であるエアロスベイスイノベーションセンター(AEIC)に参画する。これにより、スピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

航空機用部品を製造する世界最大規模のティア1メーカーであるスピリット社や他のAICメンバー各社と次世代航空機向けの革新的な炭素繊維材料を共同開発することが可能となった。

「倉敷染」のチーム強化

副資材2社加え製品化も

岡山県織物染色工業協同組合

岡山県織物染色工業協同組合(岡山市)はこのほど、染色加工ブランド「倉敷染」の拡大に向け、副資材2社を加え製品化も目指す。染色加工ブランド「倉敷染」の拡大に向け、副資材2社を加え製品化も目指す。



新たな体制でスタートするエンカウンター(左から)スチール、スレキ、リベツ

スチール、スレキ、リベツ

スチール、スレキ、リベツ

スチール、スレキ、リベツ

スチール、スレキ、リベツ

スチール、スレキ、リベツ

高機能CNFに参入

粉末状から物理的特性再現

横河バイオフロンティア

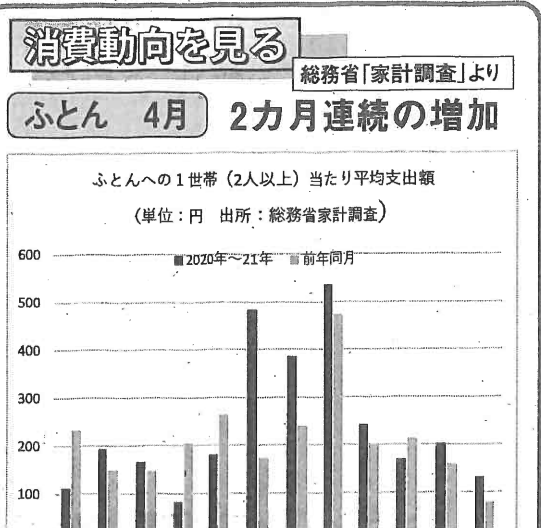
横河電機の子会社である横河バイオフロンティア(東京都武蔵野市)は、

横河電機の子会社である横河バイオフロンティア(東京都武蔵野市)は、

横河電機の子会社である横河バイオフロンティア(東京都武蔵野市)は、

横河電機の子会社である横河バイオフロンティア(東京都武蔵野市)は、

横河電機の子会社である横河バイオフロンティア(東京都武蔵野市)は、



用途に合わせた性質変化が可能になる。試算では製造工程に必要なエネルギーも少ないとする。同社は今後、SICNFの商業生産に取り組み、繊維を含む素材業界を中心に販売を目指す。生産ライセンス販売も視野に入れる。23・25日にインテックス大阪(大阪府住之江区)で開催される展示会「関西ササエナブルマテリアル展」に出展し、SICNFを披露する。